

第2期 桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対する委員意見への対応

基本目標 1

地域の資源を活用した魅力ある雇用を創出する

施策の方向性	施 策	取組内容	委員意見	意見に対する対応	担当課	関係課
(1)しごと環境の創出	3. 雇用の確保と安定化	①桐生公共職業安定所等の関係機関と連携しながら、求人企業や求職者等に広く情報提供し、効果的なマッチングを支援します。 ②勤労者の資質向上と雇用の安定を図るため、事業所等で実施する研修を支援します。	桐生公共職業安定所等の“等”について、どこか具体的な連携機関を想定しているのか。また、“情報提供”、“マッチング”について、市はどのような取組を行うのか。	①の取組内容では、桐生公共職業安定所、桐生地区勤労対策協議会、群馬県桐生みどり振興局及び桐生商工会議所と実施する「桐生市合同企業説明会」などの取組を想定しており、“等”については、それらの団体を想定したものである。 また、“情報提供”と“マッチング”については、市内企業の雇用の確保に向けた機会創出を図るための取組を推進する主旨で記載したものである。 ※資料2のとおり、文章を修正	産業政策課	市民生活課、福祉課、長寿支援課
(3)農林業の活性化	3. 林業後継者の育成	①林業後継者の育成を支援するとともに、就業環境の改善を図ります。	施策の名称は「林業後継者の育成」となっているが、指標名は「林業従事者数」となっている。どのように使い分けているのか。	林業従事者の高齢化や後継者不足が進む中、森林の適正管理や安定した林業経営を推進するため、林業従事者や新規就業者の確保・育成など雇用安定に向けた支援を国、県をはじめ森林組合を中心とする林業関係団体との協同により行っていく必要があることから、施策の名称を「林業後継者の育成」とするとともに、指標には「林業従事者数」を設定し、林業従事者数を維持していくことを目標としたものである。 ※資料修正なし	林業振興課	新里地域振興整備課、黒保根地域振興整備課

基本目標 3
安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、若い世代の希望をかなえる

施策の方向性	施策	取組内容	委員意見	意見に対する対応	主担当課	関係課
(3)特色ある教育の充実	1. 桐生ならではの特色ある教育の充実	①自然・歴史・文化・人材など地域の教育資源を活かした、桐生ならではの教育活動の充実を図ります。 ②群馬大学と連携した事業等の拡充を図り、幼小・中の一貫した教育プログラムの創出を目指します。 ③黒保根町の特色ある教育として、これまで行ってきた国際理解教育のさらなる充実を図ります。	“学校・地域との連携”とあるが、具体的な事業を想定しているのか。	放課後子供教室は、小学校区において、放課後や休業日等に安全に安心して活動する拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供達に学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流の機会を提供することにより、子ども達が地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する事業である。 ※資料2のとおり、文章を修正	生涯学習課	学校教育課、黒保根公民館
			指標に“満足度”を設定しているが、どのように測るものなのか。	各小・中学校において、全児童・生徒の保護者にアンケート用紙を配付し、実施している。 「「特色ある教育活動」が行われていると感じる保護者等の割合」については、保護者に回答してもらい、「児童・生徒の授業に対する満足度」については、保護者から児童・生徒に確認の上回答してもらい、集計したものである。 ※資料修正なし	学校教育課	生涯学習課、黒保根公民館
			指標の「「特色ある教育活動」が行われていると感じる保護者等の割合」と「児童・生徒の授業に対する満足度」について、アンケートの対象者は具体的に誰なのか。			
	2. 学校・地域との連携の推進	①学校・地域との連携により、地域における子育て環境の充実を図ります。 ②産・学・官・民の連携による未来創生塾を引き続き支援するほか、未来創生塾のプログラムの一部を小学校で実施するなど、より多くの子どもに体験学習を提供する取組を推進します。	施策の「1. 桐生ならではの特色ある教育の充実」と「2. 学校・地域との連携の推進」について、例えば“感性を育てる”など、桐生市ではどのような子どもを育成するのか、どのような能力を育てるのか、といった観点を追記してほしい。 未来創生塾には感性や人間性を育むといった理念があると思うが、取組を知らない人には、市がどのような目的で実施しているのかが分かりにくい。	※資料2のとおり、文章を修正	学校教育課	生涯学習課、黒保根公民館
			新里町の「すぎの子幼稚園」は市内外から人気のある幼児教育を行っている。また、太田市にあるぐんま国際アカデミーでも特色のある英語教育を実施し、人気である。こうした特色ある教育が、人口減少対策に繋がると考えるので、取り組んでほしい。		生涯学習課	学校教育課、黒保根公民館
				これまでも理科教育の充実を図るため、群馬大学理工学部との連携による、サイエンスドクター事業をはじめ、黒保根町における国際理解教育など、桐生ならではの特色ある教育を実施してきたところである。今後についてもそうした事業の充実等を図り、市内外にPRし、人口減少対策に繋げていきたい。 ※資料修正なし	学校教育課	生涯学習課、黒保根公民館

			少子化等により、中心市街地にあるほとんどの小学校で、学年に1クラスしかない状況となっており、こうした状況で特色ある教育ができるのが危惧される。また、市外から桐生市に移住を考える人がこの実態をみたときにどう考えるのか。こうしたことも大きな課題であるので、きちんと検討してほしい。	人口減少が進む中でも望ましい教育環境を維持し、特色ある教育が実施できるよう、学校間交流や学校の適正配置について検討してまいりたい。 なお、次期総合計画の教育環境の充実を目指した施策の中に「学校適正配置の推進」を位置付けている。 ※資料修正なし	学校教育課	生涯学習課、黒保根公民館
(4)教育研究・相談機能の充実	1. 教育研究・研修の充実	①調査・研究体制の充実を図り、学力向上や生徒指導等における課題解決に向けた研究を推進します。 ②より多くの教職員が専門的知識・技能を高められるよう研修講座の充実や群馬大学との連携を図ります。 ③学力向上や生徒指導等における教育課題の解決のため、教育研究所等の既存教育施設の機能を集約した総合教育センターを開設し、教育基盤の充実を図ります。	指標の「教職員を対象とした各種研修講座の満足度」について、アンケートの対象者は具体的には誰なのか。	年間をととして実施する各種研修講座に参加した教職員にアンケート調査を実施し、集計するものである。 ※資料修正なし	学校教育課	教育総務課

基本目標 4

広域的な視点かつ将来を見据えた、地域の特徴に応じたまちづくり

施策の方向性	施策	取組内容	委員意見	意見に対する対応	主担当課	関係課
(1)安全・安心で住みやすい環境づくり	1. 地域防災力の向上	①出前講座や防災講演会等の活用による地域防災意識の啓発を図り、自主防災組織などの地域防災体制を構築します。 ②防災に関する専門家の指導を仰ぎながら、地域住民と連携し、土砂災害対象地域における避難計画を更新するとともに、洪水時の自主避難計画、地区防災計画などの策定について研究します。	ハザードマップでは、災害時に機能すべき市役所、消防署、警察などが浸水地域となっている。災害時にこの地域にある公的施設が機能しないと大変な問題であり、優先順位が高い課題であると考えため、堤防の補強等について関係機関等への働きかけを行ってほしい。	渡良瀬川治水同盟を通じて、毎年渡良瀬川、桐生川の堤防強化や無堤箇所を整備等、河川整備について国土交通省をはじめとする国の関係機関や地元選出国議員へ要望活動を行っております。今後も定期的に河川整備について、国や県へ働き掛けをしてまいりたい。 ※資料修正なし	土木課	
			避難所に入る際、雨の中、入口で避難者に氏名を記帳させていたと聞いたので、運用を改善してほしい。	台風第19号において、避難勧告を発令した際、一度に多くの住民が避難され、学校等の入口で受付を行ったため、大雨の中、長蛇の列が出来てしまった。限られた数の職員が避難所運営にあたっていることもあるため、今後は地域の自主防災組織の方々や学校関係者等と共同で運営するなど工夫してまいりたい。	安全安心課	土木課、建築指導課、消防総務課、予防課、警防課
			避難所へのベットの連れ込みの問題や小さい子どもや高齢者がいる家庭において、やむを得ず車で避難する場合の駐車場の問題について、対応を検討してほしい。	避難所のあり方については、今回の台風第19号の状況を踏まえ、地域防災計画の大幅な改訂及び新たに避難所運営マニュアルを作成するなどして対応してまいりたい。 防災ラジオはコミュニティFMの電波で運用しているが、電波法の規制により強い出力が出せないことを理解いただくとともに、今後は、他の情報伝達手段の導入などについても検討してまいりたい。また、避難所の備蓄食糧や毛布などの物資については、自助の考え方を強く啓発し、`自分の命は自分で守る`という防災意識の向上を図ってまいりたい。 ※資料修正なし		
			防災ラジオについて、山間部でも受信ができるよう改善してほしい。また、避難所に毛布等の物資が不足していたので、改善してほしい。	庁舎の建て替え位置については、令和元年5月に就任した荒木市長のもと、再度、協議・検討しているところであり、意見については参考としたい。 なお、平成31年3月に策定した「桐生市庁舎整備基本方針」では、交通の事情が良く、官公署などが集積しており利便性が高いことや、現在地以外では駐車場（来客者用、公用車用、職員用）なども含めた必要なスペースの確保が難しいことから、現在地における新庁舎建設が最適であるとしている。また、新庁舎建設にあたっては、他市の建設例などを参考に、例えば非常用発電機の上層階への設置を検討するなど、万一の水害発生時にも支障なく機能する庁舎を整備する方針としている。 ※資料修正なし	総務課	

(2)将来を見据えた計画的なまちづくり	2. 中心市街地活性化の推進	①中心市街地の空き店舗等を活用し、リノベーションを進める民間団体との連携を図りながら、中心市街地活性化を推進します。 ②商店街の活性化に向けた商店街団体等の自主的な活動を支援します。 ③商工会議所や商店連盟協同組合などをはじめとする関係者との意見交換の場を設け、中心市街地再生に向けた方向性について検討します。	平成30年6月に桐生商工会議所と桐生商店連盟協同組合から「桐生市中心市街地活性化基本計画の策定並びに中心市街地活性化協議会組織化に向けての要望」を提出してあるので、検討してほしい。 中心市街地の件については、10年以上前から要望しているが、話し合いの場が持たれていない。今般の戦略に記載された内容が進むよう、是非とも願いたい。 “商工会議所や商店連盟など”とあるが、意見交換をする際には、市街地に行かない人や行きたくない人の考えを聞くことも重要である。意見を聞く人を誤ると、間違った方向の検討が進んでしまうので、留意が必要である。	推進委員会で出された委員の意見も踏まえ、取組内容を進めてまいりたい。 ※資料2のとおり、文章を修正	産業政策課	都市計画課
	7. 公共施設マネジメントの運営	①人口減少と財政的制約の下、施設の老朽化という課題に対応しつつ、一定の公共サービスの質を維持するため、公共施設等総合管理計画に基づき、総合的かつ計画的な公共施設のマネジメントを推進します。	指標の「公共施設等総合管理計画の類型別に策定する個別計画策定数」について、公共施設の保有量が類似自治体と比較すると多いことが課題となっている中、この指標がどういうことを目指しているのかが分かりにくい。 公共施設等総合管理計画において、延べ床面積の縮減が目標になっているので、その縮減率等を指標に設定すべきではないか。	2017年3月に策定した「桐生市公共施設等総合管理計画」では、2051年までの長期目標として、延床面積を45%縮減することを掲げ、現在、各施設の管理の方向性を示す個別計画の策定作業を、集会施設や公営住宅などの23の施設類型ごとに進めている。 このため、まずは個別計画を策定し、全庁的な共通理解を図った上で、目標の達成に向けた取組を進めて行く必要があることから、次期総合戦略では個別計画の策定数を成果指標としたものである。 指標については、そのことが分かるよう、個別計画に次の注釈を付記します。「桐生市公共施設等総合管理計画の着実な推進を図るため、各施設の管理の方向性を23の類型ごとに示す計画」 ※資料2のとおり、文章を修正	企画課	財政課、総務課

(3)地域連携の推進と交通基盤の整備	1. 地域連携の推進	①両毛広域都市圏内市町と緊密な連携を図りながら、効率的で機能的な広域行政を展開します。 ②市民サービスの維持・向上を図るため、広域的視点に立った新たな都市間連携を推進します。	“両毛広域都市圏内市町と緊密な連携”とある。施策の「4. 鉄道利用の促進」や「5. バス交通網の充実」にも関連するが、各自治体が同じ方向を目指しているのか。 単独の自治体で沿線地域や駅周辺の活性化策を目指すことは持続可能ではないので、各自治体と同じ方向を向いた取組を推進できるよう、取り組んでほしい。	群馬県及び栃木県の両毛11市町で構成する「両毛広域都市圏総合整備推進協議会」では、両毛地域における深い交流と、一体となったまちづくりを推進するため、公共施設の相互利用や11市町を巡るグルメイベントを実施するなど、広域的な都市間連携を推進している。 また、市内4鉄道の沿線自治体や鉄道事業者で構成する各協議会等では、密接な連携を取りながら利便性の向上と駅周辺を含めた活性化に努めている。 今後についても、こうした協議体等を活用し、各自治体と同じ方向を向いた取組が推進できるよう、連携してまいりたい。 ※資料修正なし	広域連携推進室	秘書室
--------------------	------------	---	--	--	---------	-----